

要領よく立ち回ってきた人ほど、
PHOENIXで苦勞する。

その場を収めても、自分是不わらない。



「おっしゃる通りです」
とうなずく。



「反省しています」
と頭を下げる。



相手が納得しそうな言葉を選び、
その場を収める。

学ぶために来た場所で、学ぶ必要がある自分を隠してしまう。
これほど、もったいないことはない。

返事が上手でも、取り組みが同じなら課題は残ったままだ。



● 謝って話が終わること ≠ 問題が解決すること

できない姿を
見せて教わる

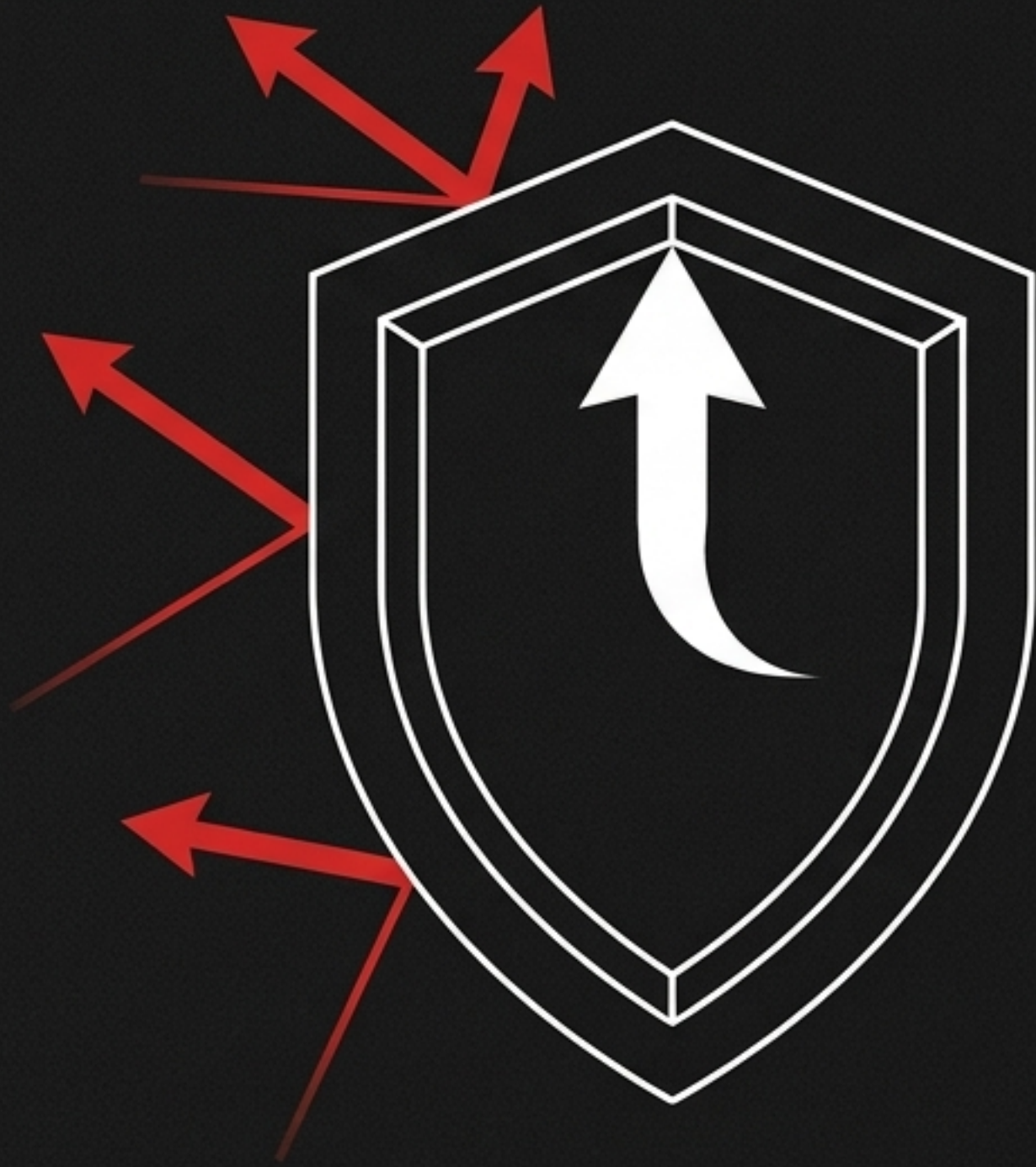
次の一球で試す

問題の解決へ

「それで、次の一球を
どう変えたのか？」

その先を問われる。

成長を止める「自己防衛」の逆説



自分を守るために
身につけた上手さが、
自分の成長を
止めてしまう。

相手が納得する言葉を探し、その場を丸く収める。
そこには確かに努力がある。
けれど、守り抜いたのは「上達を妨げている今の自分」なのだ。

あなたはどちらのコートに立っているか？

「できる人に見られたい」

発言： 「分かりました」と取り繕う。

状態： 本当に困っている場所を隠す。

指導者から： どこにつまずいているか見えない。
(修正が始まらない)

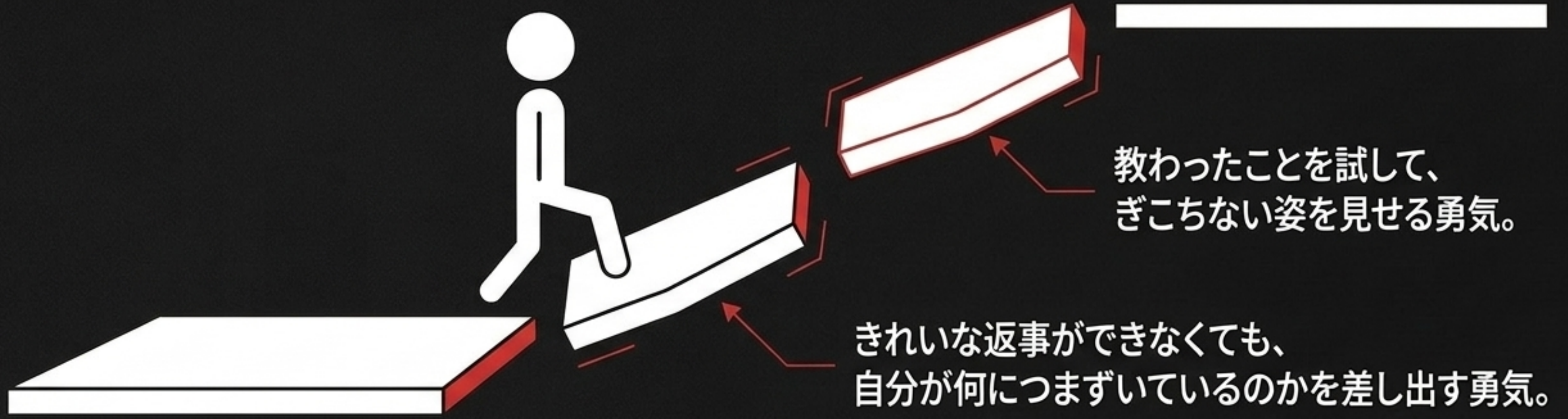
「できるようになりたい」

発言： 「分かりません」「できませんでした」と伝える。

状態： 自分の未熟さを差し出す。

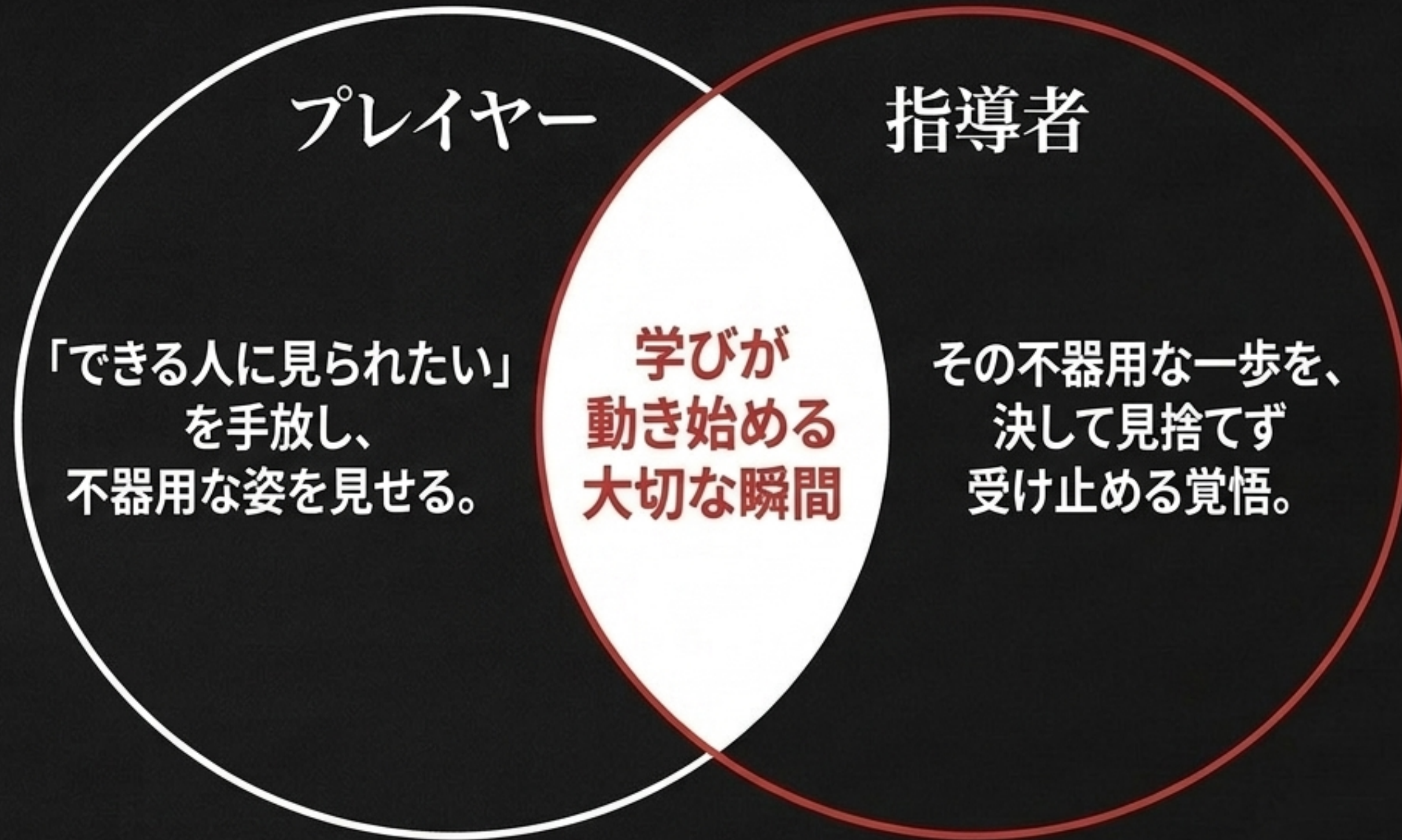
指導者から： 課題が明確になる。
(次の修正が始まる)

学びの場における「本当の勇気」



取り繕うほど、損なのだ。

偽りを捨てた瞬間に、学びは動き出す





うまく立ち回れなかった今日が、
本当に変わり始めた初日になる。

「できるようになりたい」に戻る、その一歩をPHOENIXは熱く応援する。

PHOENIX愛知 - 豊田市・岡崎市近くのバドミントン教室

PHOENIX愛知の
理念・コーチ紹介



[公式サイトへ]

体験レッスン
&Eラーニング

物理法則を超える発想と、
厳しい言葉の裏にある
「覚悟」を体験する。

お問い合わせ

TEL：080-6910-0479
各種お問い合わせ受付中